

令和5年度 こども若者☆いけんぷらす
育ち指針についてのアンケート調査結果(いけんのまとめ)

○調査概要

(1)調査テーマ

- ・ 小学校に入るまでを振り返って楽しかったこと、もっと大人にして欲しかったことについて

(2)調査対象

- ・ 「こども若者☆いけんぷらす」の「ぷらすメンバー」に登録している方 全員
(年齢確認が完了している方)

(3)回収状況

- ・ 調査対象者数:533人
- ・ 有効回答数(率):202件(37.9%)

(4)調査方法

- ・ Google フォームを用いた WEB アンケート調査

(5)調査期間

- ・ 令和5年8月1日(火)~8月15日(火)

(6)設問内容

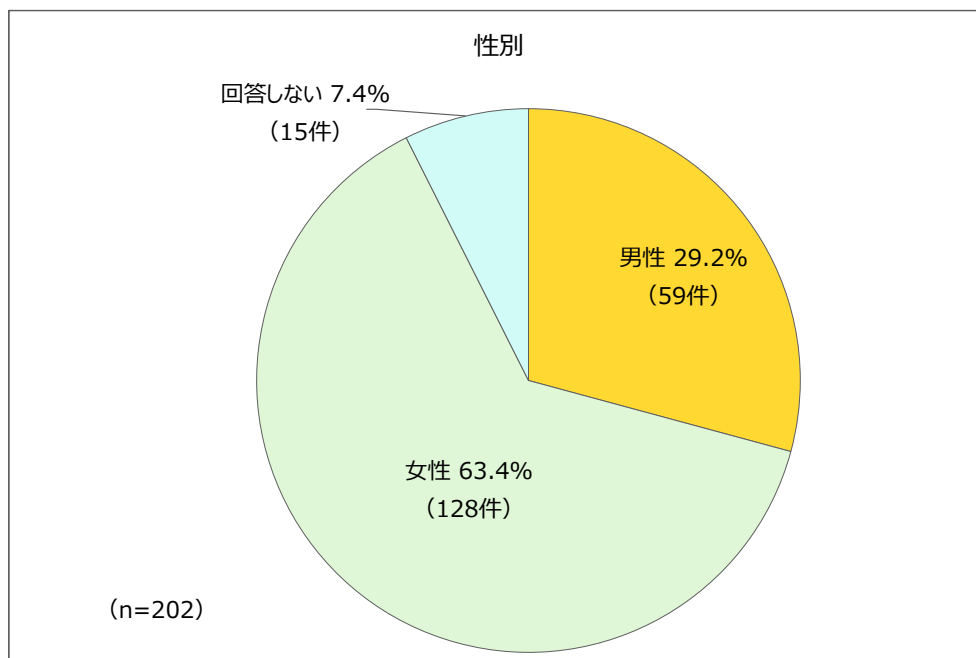
#	設問文	回答形式
1	性別	単数回答
2	年齢	単数回答
3	幼児期までの育ちを振り返って、どんな時が楽しかったかを教えてください。	自由回答
4	幼児期までの育ちを振り返って、もっと大人にしてほしかったことは何か、それはどんな時かを教えてください。	自由回答

(7)注意事項

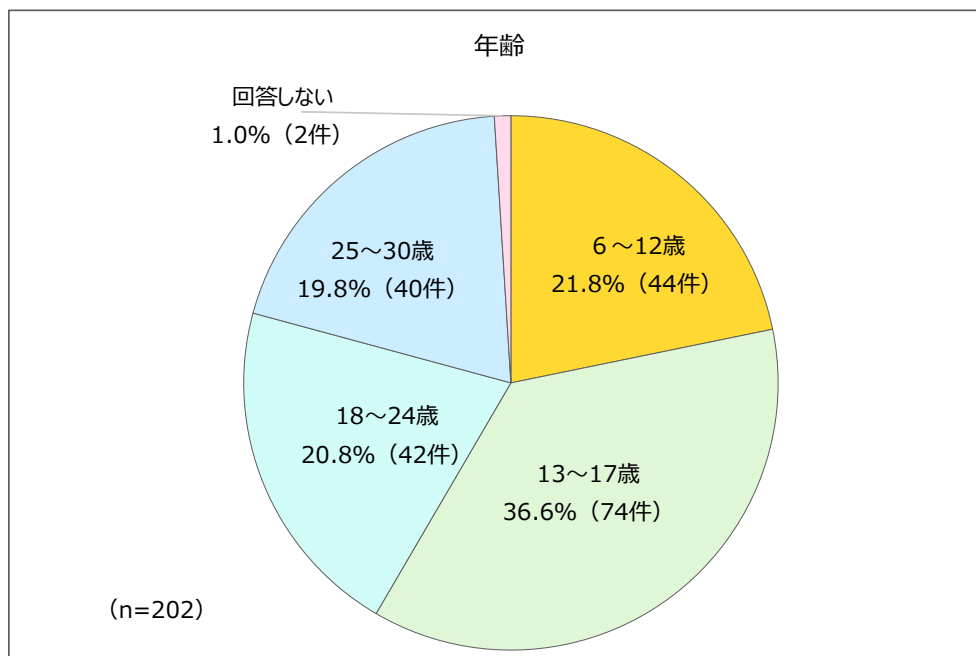
- ・ 公表用資料においては、固有名詞を一般名詞に置き換えるなどしています。

○調査結果

Q1. 性別(単数回答)



Q2. 年齢(単数回答)



アンケートの「Q3. 幼児期までの育ちを振り返って、どんな時が楽しかったか」と「Q4. 幼児期までの育ちを振り返って、もっと大人にしてほしかったことは何か、それはどんな時か」で集まった回答（意見）は、下記のカテゴリに沿って整理しています。

- ① こどもの権利と尊厳を守る
- ② 「安心と挑戦の循環」を通してこどものウェルビーイングを高める
- ③ 「こどもの誕生前」から切れ目なく育ちを支える
- ④ 保護者・養育者のウェルビーイングと成長の支援・応援
- ⑤ こどもの育ちを支える環境や社会の厚みを増す

Q3. 幼児期までの育ちを振り返って、どんな時が楽しかったかを教えてください。
(回答者数 196人)

①「こどもの権利と尊厳を守る」に関連すること

- ・ 該当する意見なし。

②『安心と挑戦の循環』を通してこどものウェルビーイングを高める」に関連するもの

- ・ お祭りに遊びに出かけたこと（18～24歳）
- ・ 家族と過ごした時間（13～17歳）
- ・ たくさん遊んだ事です。（13～17歳）
- ・ 両親との鬼ごっこ。（両親がリアルに鬼の気迫を再現していて面白かった記憶がある笑）（13～17歳）
- ・ 色々なところに行けたこと（遊び場など）（6～12歳）
- ・ 親や兄弟と旅行したこと（25～30歳）
- ・ 家族や友達と遊んだこと（18～24歳）
- ・ 運動会で演技が成功したとき（13～17歳）
- ・ 自由に遊んだり、食べたりできた時（18～24歳）
- ・ 友達と外で遊ぶ時（13～17歳）
- ・ 公園で川を作っていた時（13～17歳）
- ・ 僕は、生後3ヶ月から、保育園に行っていました。小学校入学するまでは、保育園の先生達との関わりが多かったです。楽しかった事は、年齢に関係なく赤ちゃんのお世話をしたり、たくさんの行事があった事が、今でも楽しい思い出になっています。（13～17歳）
- ・ どんなものにも追われることなく自由気ままに遊んでいたとき（13～17歳）
- ・ 絵を描くことが楽しかったです。（6～12歳）

- 泥団子をたくさん作ったこと。隠して次の日には壊れていて、また作ってを繰り返していた。(25～30歳)
- 外で遊んだり、好きなことをしたり、友達と触れ合ったり、自由な時間が楽しかった。(13～17歳)
- 幼稚園での読み聞かせの時間。(25～30歳)
- 保育園のみんなで遊んでいる時が楽しかったです。(6～12歳)
- 読書をするとき(18～24歳)
- 保育園で先生や友達と遊んだこと(13～17歳)
- 公園で遊んでいた(18～24歳)
- お風呂でお風呂用のクレヨンでお絵描きしたこと(18～24歳)
- 家族や友達と色々なところに行ったとき。(13～17歳)
- 幼稚園で、外で鬼ごっこしていた時(6～12歳)
- 保育園で思い切り自由に遊んだ時が楽しかったです。砂場の砂を底まで全部掘り返したこと、園の端から端までの長い紙輪の鎖を作って誉めてもらったことを今でも記憶しています。あとは遠足で山や海まで旅行に行ったことでしょうか。大人になって振り返ってみると、先生方に大変ご迷惑をおかけしたんだらうと思います。今は人手不足の園が多いので、昔より窮屈かもしれませんね。(25～30歳)
- 駅や博物館に出かける時(13～17歳)
- みんなで鬼ごっこしたりかくれんぼしたりしたこと(13～17歳)
- おばあちゃんちに行った時(13～17歳)
- 保育園にいたとき(6～12歳)
- おばあちゃん家に行って遊んだこと。(6～12歳)
- 何も考えずに過ごしても許されていたとき(13～17歳)
- 幼稚園の友達と園庭で遊んでいたとき。(13～17歳)
- 近所の公園で小学生や中学生と遊ぶ(18～24歳)
- 旅行が楽しかった(6～12歳)
- 出来ないことが出来るようになったとき。また、それに挑戦できる環境だったとき(13～17歳)
- やりたい遊びをやりたい時にできたとき(25～30歳)
- 幼稚園や保育園の園庭で楽しく遊んでいた時(13～17歳)
- 児童向けの科学雑誌などで知的好奇心を満たせたとき(25～30歳)
- 色んなことができるようになったこと(18～24歳)
- 失敗が許されていたこと…(18～24歳)
- 様々な場所や物事を見て物事をするのが楽しかった(18～24歳)
- 保育園での遊び(6～12歳)
- お母さんと遊んだこと(6～12歳)

- チアの大会に出たのが楽しかった。(6～12歳)
- いつも楽しかった。(6～12歳)
- 幼稚園でクワガタとりをしたこと。(6～12歳)
- ママと一緒に遊んだ時。(6～12歳)
- 両親と父方の祖父母と一緒にくらしていました。土日は両親や祖父母と一緒に出かけるのが楽しかったです。海や川、科学館などたくさんの方に連れて行ってくれました。家族が楽しそうにしているのが楽しかったです。(25～30歳)
- 外遊び、プール、絵本読む、積み木などを姉妹3人で遊んでいる時間(25～30歳)
- 夏、夏バテ予防で梅干しを食べるとき(6～12歳)
- お友達が持っているおもちゃと自分のおもちゃを交換しながら遊んだことは楽しかったです。憧れのおもちゃを使えたことが嬉しかったと思います。(18～24歳)
- 折り紙をおったり、絵をかいたり何かを製作している時(6～12歳)
- プール(13～17歳)
- 体を動かしたり、部屋で絵を描いたり、とにかくその時したいことをして、全力で遊ぶとき。初めてさせてもらうことも楽しかったけど、やりたいなと思っている、またはご褒美にお菓子がある等があった時のみ楽しめた。強制されるのではなく、色々な選択肢から選ばせてもらえたことが、またそれを辞めるタイミングも選ばせてもらえることが、楽しさに繋がった。(18～24歳)
- とにかく毎日が楽しかったです。(13～17歳)
- 年中から幼稚園に入ったので、みんなが通ってる最初の1年間は幼馴染と遊びまくっていたので、楽しかった気がします(13～17歳)
- 家でゲームしてる時(25～30歳)
- 大人といるとき(13～17歳)
- みんなで遊んでいる時(13～17歳)
- 保育所で大縄跳びをしたとき。私のお気に入りの先生が、歌いながら大縄を回してくれた。皆でじゃなく、順番に一人ずつ跳ばせてくれたから楽しかった。(25～30歳)
- 家族で車で外出した時。家だと過ごす部屋が分かれていて一緒に過ごせなかったから。(13～17歳)
- 保育所で友達と遊んだとき(13～17歳)
- 保育園の昼寝時間(6～12歳)
- 人と遊んでいる時(25～30歳)
- 砂遊びや泥遊び、木登りなど、野外で活動することが多く、虫取りもたくさんやっていた。(18～24歳)
- 家で寝る前にお母さんやお父さんに本を読んでもらっているとき。(6～12歳)
- 寝ること(13～17歳)
- 友達と遊んでいる時(18～24歳)

- 友達と外で遊んでいるとき。(13～17 歳)
- 友達と泥だんごを作っている時や鬼ごっこをしている時 (13～17 歳)
- 喧嘩がない。(6～12 歳)
- 自由があり、精神的な束縛を受けなかったこと (18～24 歳)
- 1人で何かを成し遂げて褒められた時 (13～17 歳)
- 自分が好きなことをして遊んだ時 (6～12 歳)
- できなかったことができた時 (6～12 歳)
- 幼稚園の先生が、自分の話を聞いてくれて優しい対応してくれた。間違っても『今度から気をつけようね』と言ってくれた。(6～12 歳)
- 本を読んでいる時 (25～30 歳)
- 親との旅行 (6～12 歳)
- 楽しかった (6～12 歳)
- バケツプールに連れて行ってもらったこと (6～12 歳)
- あまり友達を作るのが得意ではなかったのも、母親と一緒にいた時 (25～30 歳)
- 幼稚園で友達と遊んでいるのが楽しかった (13～17 歳)
- イベント行事 (6～12 歳)
- たくさん公園に遊びに連れて行ってもらったこと。(18～24 歳)
- 保育園での特別授業とかが楽しかった。例えば、ゴルフとか、料理とか遠足とか。(13～17 歳)
- いろいろなものを見て新しい物事知るのが楽しかった (18～24 歳)
- 幼稚園で、気の合う友達と外で遊ぶこと。(13～17 歳)
- 遊んだ時 (18～24 歳)
- 遊ぶこと (13～17 歳)
- 親と一緒に遊んでいたとき。(18～24 歳)
- 保育園のときとかが楽しかったと思う。(13～17 歳)
- 自分の興味あることができるとき (年齢無回答)
- 友達とあそぶとき (25～30 歳)
- ごっこ遊び (25～30 歳)
- 家族と出かけた時 (13～17 歳)
- 泥遊びをするとき (25～30 歳)
- 保育園でみんなで歌を歌った時 (6～12 歳)
- 自分の好きなことをしている時です。(6～12 歳)
- 家族との日頃の会話 (13～17 歳)
- 勉強している時。(6～12 歳)
- 今よりもたくさん遊んだ事 (13～17 歳)
- 保育園 (13～17 歳)

- 一人親で、低所得者だったが、子どもの時は現在より比較的生活費がかからなかった為、色々な体験をさせてもらえた時。 例) 開通したばかりの新幹線に乗った時バレエをさせてもらえた時 (13~17 歳)
- 友達や先生と遊んでいるとき (13~17 歳)
- おもちゃで遊んだり、遊具がたくさんある公園で遊んだこと (13~17 歳)
- かくれんぼ (6~12 歳)
- 友人達との遊びにおいて、特に自分がリーダーとして振る舞っていた時 (25~30 歳)
- 公園で遊んだ時がたのしかった。(13~17 歳)
- 幼稚園で友達と遊んでいるとき (13~17 歳)
- テレビを見ること (18~24 歳)
- 砂場遊び (6~12 歳)
- 遊んでいた時 (13~17 歳)
- 幼稚園などに行っている時が楽しかったと思う。(13~17 歳)
- 身体を動かす遊び (13~17 歳)
- 保育園のそとでストライダーにのるのが楽しかった (6~12 歳)
- 同じ年齢の人たちと色々な場所であそんだ (13~17 歳)
- 友達とあそんだ時 (6~12 歳)
- セミを捕まえている時 (13~17 歳)
- 家族で出かけたこと (13~17 歳)
- 偏食だったので給食にきらいなものがなかったとき (年齢無回答)
- パパが仕事休みの日に保育園休んで朝から公園でたくさん遊んだ時楽しかった。(6~12 歳)
- 友達と遊んでる時 (13~17 歳)
- 幼稚園入る前まで (6~12 歳)
- 幼稚園のお泊まり会など、幼稚園の行事に参加していた時。(18~24 歳)
- 初めての経験をしたとき (6~12 歳)
- 幼稚園に通っている時 (13~17 歳)
- 両親に色々なところに連れてってもらったこと (13~17 歳)
- 友達と遊んだこと (13~17 歳)
- 友達と遊ぶこと (13~17 歳)
- ごはん (18~24 歳)
- ・近所の公園でその地域の同世代の子供と遊んだこと・幼稚園の園内で木登りしたり、果物を取ったこと・通園の時近くの子供と団を組んで一緒に歩いたこと (25~30 歳)
- 運動して遊んでるとき。家族旅行にいつてるとき。(13~17 歳)
- 友達と思いつき遊んだときどろんこあそびをしたとき先生やお母さん、友達が元

気なとき（13～17歳）

- 保育園で野菜を育てた時テーマパークや動物園または水族館に行く時（6～12歳）
- 保育園でみんなと遊んだこと家族でフェリーに乗って青森に行ったこと家族でテーマパークに行ったこと（6～12歳）
- 家族と、公園や近所の道路で遊んでいる時。祖父母の家にお泊まりに行く時。家族と遊園地に遊びに行く時。家族で旅行に行く時。（18～24歳）
- 1人で本を読んでいるときと、大人と話しているときが楽しかった。（18～24歳）
- アスレチックで遊んだこと普段会えない親戚と遊んだこと（6～12歳）
- 外で親とスポーツをしたこと迷路やひらがな数字の練習をしたことおままごとや大人のマネをして遊んだとき（13～17歳）
- 保育園であそんだこと。お母さんとたくさん旅行したり、エコツアーとかキャンプをしたり、理科教室とか科学館とか博物館にいったこと。（6～12歳）
- 家族とお出かけしたときや家族でご飯を食べる時。保育園で自由に過ごしていたとき（18～24歳）
- 何かで遊んでいた時電車を見る時（13～17歳）
- 友だちと遊んでいるとき両親と楽しく過ごしているとき（25～30歳）
- 幼稚園で人形劇をして褒めてもらった時。本を読んでいる時。（25～30歳）
- 思い切り遊べたこと。親や幼稚園の先生など周りの大人に認められたとき。（25～30歳）
- 幼稚園で別の学年のペアと遊んだとき（妹が出来たみたいで）/お遊戯会で役を演じたとき（多分、仲が良い人以外とも話せたから）/幼稚園の先生が手作りのクリスマスカードやケーキをくれたとき（家でそういうのはなかったから）（18～24歳）
- 友達と遊ぶとき。（ごっこ遊び、折り紙、泥だんご作り、ピアノなど）遊具で母と一緒に遊ぶとき。絵本を読んでもらうとき。（25～30歳）
- 初めて友達ができたこと家族旅行妹が生まれたこと本をたくさん読めたこと曾祖母と一緒に畑仕事をしたり遊んだりしたこと（13～17歳）
- 泥団子で遊んだり、体よりも大きな（ウレタンの）ブロックを使ったりして遊んだこと。散歩に行つて花を摘んで花輪を作ったり、飴を食べたこと。（18～24歳）
- 身近な友人と遊ぶこと 親戚の子どもと集まること たまに兄弟とは別行動で母と2人で出かけたこと（25～30歳）
- 保育園で友達と一緒に絵を描いたり、砂遊びしたり、友達と外にある遊具で遊んだり、友達おままごとセットのようなものでおままごとしたりしたとき。家にいるとき、自分の好きなお人形で一人で自由に遊んだりしているとき、一人で何が目的でもなく絨毯の上でごろごろしていたとき。（6～12歳）
- 保育園で友達や先生と遊んでいたとき迎えに来てもらった後に母に見守られながら保育園で遊び続けていたとき妹のお世話を少しお手伝いさせてもらったとき（18～

24 歳)

- 一人で遊ぶ時、ご飯を食べるとき。(18～24 歳)
- 外で遊んだ時間と家族で過ごした時間が楽しかった。(13～17 歳)
- 毎週末に祖父母と遊んだこと。その遊びの中に、ひらがなを学んだり、昆虫や魚、星などの図鑑を見たことがあります。他にも、祖父母は紡績工場を経営していたので、その仕事の様子を見るのも楽しかったです。他にも父が大型トラックの運転手をしていて、幼児期に乗せてもらって楽しかったですし、その記憶は今でも残っています。ただ遊ぶだけでなく、遊ぶ感覚で何かを知る、観察するというのに楽しさがありました。(18～24 歳)
- 幼稚園の先生とあまり仲が良くなかったのですが、園長先生には可愛がっていただいていたので、園長先生と手紙のやりとりをするのが楽しかったです。家族と過ごすのも好きでした。(18～24 歳)
- 家族旅行や幼稚園の行事で遠い場所に連れて行ってくれたこと。(25～30 歳)
- 親など、自分を可愛がってくれたり、自分が安心でき、遊び相手をしてくれる大人や、幼馴染などお互いよく知っている友達と遊んでいるとき (25～30 歳)
- 家族旅行お稽古事 (バレエ、スイミング、塾、コーラス、そろばん) 家族と過ごす時間 BBQ なんでも楽しかった (13～17 歳)
- ・家族や親戚と集い、交流する時間。・地域の子育てイベントで、お菓子作りや親子クッキングを行ったり、地域の同年代の友達と交流する機会・母親と住んでいる地域を散歩し、地域の人と話したり、自然に触れ合ったりした経験特に私は一人っ子だったため、幼少期の私にとって家族や家族外の人との交流機会があることがとても嬉しく楽しい時間だった。(13～17 歳)
- 幼稚園にいたとき。おいしいものを食べたとき。周りの大人の機嫌がよかったとき (25～30 歳)
- たくさんの動物に触れ合ったり、自然の中で遊んだこと。乗り物に乗って出かけること。とにかくたくさん出掛けて色んな文化や建物や土地に触れたことは全部楽しかった。家族とみんなと一緒に過ごす時間。(25～30 歳)
- 家族旅行プール (25～30 歳)
- 絵を描くとき、戦国時代の歴史が好きだったのでその時代に関する本や屏風絵などを見ているとき、電車やバスに乗るとき、祖父と一緒にいるとき、幼稚園の友達と公園で遊ぶとき (13～17 歳)
- 保育園でのお泊まり会保育園の始まる朝の時間に大縄跳びを友達としたこと。(13～17 歳)
- 冬に幼稚園で外でアイスクリンを作ったとき幼稚園で飼っていたウサギや鶏の世話をしていたとき (18～24 歳)
- 一つ上の姉とその友達と室内で遊ぶことが楽しかった。具体的な遊びとしては、お

- ままごとや創作活動を行っていた。祖父と遊ぶことも楽しかった。猫や犬、モルモットなどの動物と触れ合うことが楽しかった。(18～24 歳)
- ジブリの森や動物園など、様々な体験をする機会が楽しかった。また、複数の親子が交流を持ち、同世代の友達と遊ぶことが楽しかった。祖父母の家で過ごす時間も楽しかった。(18～24 歳)
 - 習い事をしていたとき。(13～17 歳)
 - 大人から褒められた時、友達と仲良く遊んでいた時、好きな本を読み聞かせてもらっていた時 (18～24 歳)
 - 絵本を読んでいる時は楽しかった。家族で毎年海に行っていた。普段、共働きの両親にはあまり遊んでもらえなかったから構ってもらえるのは嬉しかった。近所の公園に行くのも楽しかった。1人でブランコや滑り台をしていた。花火大会や夏祭りも。有名なやつじゃないけど楽しみだった。(13～17 歳)
 - 友達と遊ぶ時、好きな先生がいる時。(18～24 歳)
 - お母さんに絵本を読んでもらってるとき習い事をしてるとき久しぶりにおばあちゃんの家に戻ったとき友達と遊んでいるとき (13～17 歳)
 - 児童館までの登園で、いつも一緒に行っていた子を見かける朝の時間。児童館の年中組だったときのお遊戯会、バリ島の踊りを踊る役に指名され、センターで踊った。練習の時から手首を回す動きができていて褒められた。祖母の家で飼っていた犬と遊んだ時間。祖母の家に来る移動販売車から祖母がお菓子を買ってくれた時。(25～30 歳)
 - 1. 動物と触れ合うこと 2. 博物館に行く 3. ブロックで遊ぶ (18～24 歳)
 - 記憶として『楽しかった!』というものではない (記憶がある方の意見を重視してもらっても構わない)のですが振り返ると『家族(親)が、読み聞かせ用の本やおもちゃを一生懸命に借りてくれていた』こと、習い事(ピアノ)などにも触れさせてくれていたことは、今の成長に繋がっているのかな、と思います。(ご存知だとは思いますが、最近『ご飯も食べさせられない……』で苦しんでいる親もいるので、食べ物だけではない、文化資本にすべての子どもが触れられるようになると思います) (25～30 歳)
 - バレエを習っていて、帰りにデパートでお気に入りのドリンクヨーグルトを買ってもらって飲むのが楽しみでした。今でもバレエから帰ると冷蔵庫の同じヨーグルトを飲むことが多いです。それから読書をするのが好きで、いつも家の隅の日の当たるところで本を読んでいた。(25～30 歳)
 - 本を読んでいるとき、幼稚園で友達と遊んでいるとき (18～24 歳)
 - 家族と出かけること(近くの遊園地)田んぼでのザリガニ釣り母に絵本を読み聞かせてもらうとき (13～17 歳)
 - 友達と遊んでいる時。外で遊んでいる時。(13～17 歳)

- 家族旅行をした時。夕飯の時にいつもお母さんと話したことも楽しい思い出。(13～17歳)
- ごはんを食べること。遊ぶこと。遊んでもらったこと。テレビを見ること。自転車乗り。本を読んでもらったこと。旅行にいったこと。カブトムシを飼ったこと。(6～12歳)
- 友達と放課後に遊んだこと好きなときに好きなだけ遊んだこと (18～24歳)
- 自由に遊んでいる時。誰かに褒められたことをしている時。(18～24歳)
- 遊んでいるとき、勉強しているとき (25～30歳)
- お遊戯会のダンス練習、歌練習正月にする羽子板、英語の塾でのハロウィンパーティー、演劇練習 (13～17歳)
- 野菜のスケッチ。お絵描き。日曜朝のアニメ鑑賞。絵本。人形遊び。(18～24歳)
- 幼稚園で遊んだこと、家族旅行に行ったこと (13～17歳)

③ 『こどもの誕生前』から切れ目なく育ちを支える』に関連するもの

- 該当する意見なし。

④ 「保護者・養育者のウェルビーイングと成長を支える」に関連するもの

- 該当する意見なし。

⑤ 「こどもの育ちを支える環境や社会の厚みを増す」に関連するもの

- 該当する意見なし。

⑥ その他

- 学校の友達と遊んでいる時(学校内、放課後も含む) (25～30歳)
- 小学校で休み時間、男女関係なく校庭で遊んでいたとき。(13～17歳)
- 実生活に即した遊びの方が好きだったように思う。(おままごとでも、おもちゃのおたまではなく実際に使えるおたまを使ったりなど) (25～30歳)

⑦ わからない・特になし

- たのしかったことがよくわかりません (6～12歳)
- 覚えてません (3件、6～17歳)
- ありません (2件、25～30歳)

Q4. 幼児期までの育ちを振り返って、もっと大人にしてほしかったことは何か、それはどんな時かを教えてください。(回答者数 181 人)

①「こどもの権利と尊厳を守る」に関連すること

- 何かをやらせるときやってほしいことをハッキリと言って欲しかった (13~17 歳)
- つたないことばでも時間をかけてゆっくり気持ちや話を聞いてほしかった。習い事は何が嫌でどうすれば楽しくできるのか、話しながら解決したかった。無理やり連れていかれたり、サボって怒られるのがきつかった。子どもの思考で考えて、何が不安で何をしたいのか話を聞く時間が重要。(18~24 歳)
- どうしても仲良くなれない人はいることを教えてほしかった (18~24 歳)
- 性別によって態度を変えずにみんな平等に接してほしかったです (6~12 歳)
- 叱られた時、話の長さや場の空気の重さによって、何について叱られているのか、今後どうしたらよいか分らなくなることがありました。何が望ましくない行動だったのか、今後どう改善するかを子ども自身が考え、臆せず伝えられるような叱り方(というか対応のしかた)をしてほしかった。(18~24 歳)
- 自分を肯定して欲しかった。耳を傾けて欲しかった。当時 4.5 歳だった私が姉と喧嘩して泣いていると祖母は必ず眠いんじゃない?寝かしたら?と言っていました。そこで、私が違う!と言うと余計早く寝かせたらと言われた。(13~17 歳)
- 自分が何か言った時、言葉でうまく伝えられなくても、自分の思っていることを勝手に想像して決めつけないでほしかった (13~17 歳)
- もう少し自由にさせて欲しかった→服装が可愛らしいものが多くてどこか窮屈だったから (13~17 歳)
- もっと見てほしかったのかなと思う。(18~24 歳)
- 夫婦喧嘩を子供に見せない、巻き込まない努力。(18~24 歳)
- 我慢しなくていいときもあるということを教えてほしかった。大人に指示されたときは、我慢して従わなくてはいけないと思っていたので。指示がおかしいと思ったときは、どうすればいいのか教えてほしかった。(6~12 歳)
- 何かいいことをした時(周りに気を遣えたなど)に「大人っぽい」という言葉で周囲から褒められることが多かった。褒められることに執着していた幼児期の私は大人っぽく振る舞うことを強く意識し始め、心の成長の早さで他者や自分の善し悪しを判断するようになった。また、大人のような落ち着きや安定さを求めながらも現実では感情に支配される素直な幼い自分がいて、理想と現実の狭間で悲観的になったり、自分のことを「大人」か「子ども」というどちらかに決めつけたくなる窮屈な時期が続いた。そのため、褒める時は大人という言葉ではなく、もっと本人の性質を褒めるような言葉(「優しいね」など)を使って欲しかったと思った。(13~17 歳)

- 1人になれる部屋を作って欲しかった（6～12歳）
- 一人の人間として扱い、気持ちに向き合ってほしかった。子どもだからと適当に対応されたり、また泣いてるわとほっとかれたり、私が嬉しいと思ったことを一緒に喜んでくれなかったりしたのが嫌だった。（25～30歳）
- 外出先で母と1つのお手洗いに入るのですが、和式だと恥ずかしかったので言えれば良かったのですがそういうものなのだと思うようにしていました。（13～17歳）
- 引っ越して友達と別れるのが嫌だった。おじいちゃん、おばあちゃんが自分の考えを押し付けてくるのが嫌だった。（13～17歳）
- 大人との接し方、会話の仕方。（ルール・マナー）（13～17歳）
- 一人の人として、人格を尊重する気持ちを持って接して欲しかった。他の兄弟と自分との差別をできるだけ少なくしてほしかった。（18～24歳）
- やたら外で遊ばせようとするのは嫌だった。（18～24歳）
- いじめの対策（6～12歳）
- 怒る時にはちゃんと理由を教えて欲しかった。（25～30歳）
- 下にきょうだいも居ても一人一人をきちんと見てほしかった。幼少の頃から“姉”としての役目（下のきょうだいの世話など）を背負っていた気がする。良い側面ももちろん大きいけど、意見を抑圧する（やりたい！が素直に言えない）ことに繋がったし、成長の過程を見ると意見を持ち、発信できるようになるまでに時間がかかったように思う。（25～30歳）
- 子供だから理解できないと決めつけず説明してほしかった/頭ごなしに怒らず自分の話を最後まで聞いてほしかった/質問したときに曖昧な回答をしたり嘘を言わないでほしかった/目の前で（目の前じゃなくても）喧嘩しないでほしかった/子供は何が好きで何が嫌いだと決めつけなくてほしかった（18～24歳）
- 自分に合った園に入園させてほしかった。園のおしごとのシステムが自分には合っておらず、過ごしづらい幼児期だった（25～30歳）
- イライラして怒らないで欲しい（6～12歳）
- こどもだからと言ってナメられた。対等に接してほしかった。（6～12歳）
- いじめを受けていたので心のサポートをもっとしてほしかった。（13～17歳）
- ・意見を聞く ・頭ごなしに怒らない（13～17歳）
- ケンカしないでほしかった。（18～24歳）
- 話を聞いてほしかった（13～17歳）
- 戦争をやめてほしい（6～12歳）
- 男らしく強く育てて欲しかった。（25～30歳）
- 給食残すのだからこってると先生に怒られるのに給食室の人は笑顔で大丈夫だよといってくれるので残すの禁止ルールなくしてほしい（年齢無回答）
- 発達障害について気にかけること。（25～30歳）

- 叱るときに、あまり強く怒らないでほしかった (13~17 歳)
- 友だちは「本人がほしいと思わなければできない」だれかにステータスとして見せつけるものではないと認めること。友だちをつくろうとしない子どもも幸せに暮らしている。世間が気になって苦しいのなら、世間を捨ててください。(18~24 歳)
- 自分の気持ちをもっと聞いてほしかった (18~24 歳)
- 何かを決めるときに自分の意見を尊重してほしかった (18~24 歳)
- 決めつけて怒らずに経緯やなぜその行動をしたのかを聞いてほしかった (18~24 歳)
- 叩いたり怒ったりせずに優しく諭してほしかった (18~24 歳)

② 『安心と挑戦の循環』を通してこどものウェルビーイングを高める』に関連するもの(Q4)

- 小さい子が遊ぶ施設にもっと行きたかった。親はお金がかかると言っていたから時々行くだけでした。(13~17 歳)
- もっと遊んで欲しかった。両親が昼寝をしてしまうと遊び相手がいなくなり、暇で退屈してしまうから (13~17 歳)
- ブロックとかで遊んでいたら空間把握能力がついていたかもしれないと思います。(18~24 歳)
- 地域との交流が少なかった。(13~17 歳)
- 僕の家庭は、母子家庭ですが、母は僕達を三人育てる為に、昼も夜も働き生活を支えてくれました。大人にしてほしかった事は、特にないですが、家族で旅行に行ってみたかった。(13~17 歳)
- 普段の生活で愛情を注いでほしかった (13~17 歳)
- 幼稚園の先生がめっちゃ怖くて、給食の時間に残すと怒られたのが少しトラウマである。もう少し優しく言って欲しかったなあ。(25~30 歳)
- 私は化学が好きなのですが、私の身の回りに化学の話を教えてくれたり話したりできるのがお父さんだけだったため、図鑑や本で知った化学の事を幼稚園の先生や友達と話せず、退屈だった。その時、大人は「幼児なんて化学はわからない」と思っていたかもしれないが、幼児でも好きな事や興味があることに対しては知識があることを理解してもらい、積極的に一人一人の長所を見つけ出してほしかった。(13~17 歳)
- 好き嫌いをそのままにしてほしかった。(25~30 歳)
- 色々な体験をする機会があればよかった。特に、スポーツや芸術活動はやってみて初めて楽しさや才能がわかる物だと思うので、一度でも体験できる場所が必要だと思った。(18~24 歳)
- けんかしないでほしかった。もっと一緒に遊んだり、どこかに行ったりしたかった。旅行じゃなくてもいいから皆で仲良く何かしたかった。(13~17 歳)
- もっと、見て欲しかった。助けて欲しかった。必要な存在であると認めて欲しかった

た。(18~24歳)

- 教育番組にもっと触れさせてほしかった (18~24歳)
- 様々な言語を聞きたかった。(13~17歳)
- 私の父が単身赴任だったため、小さい時になかなか父と遊ぶ機会がなく寂しい思いをしました。父となった私は現在、1年間の育児休業をとり、できるだけ子どもが甘えられるよう努めています。(25~30歳)
- 震災でアウトドアの経験をできなかったのも、そう言ったことをもっとさせてほしかった。(13~17歳)
- もっと色々な場所を経験させたり、習い事を経験させて欲しかった (13~17歳)
- もっと遊んでほしかった (6~12歳)
- 遊びの中に自分から入っていくことができない子で、どう声をかけていいか分からず立ちすくんで眺めるのは大学まで続きました。また、家庭環境が悪く人形遊びの内容が悲惨でした。しかし、発達が早くて手がかからず、大人の期待に応えようとする子だったので、誰にも困っていることに気づいてもらえませんでした。大人びているから、問題を起こさないからと見過ごさず、幼稚園までにこれらのことに周りの大人が気づいて、やり方を教える、話を聞くなど介入してくれたら良かったと思います。(25~30歳)
- 教育 (6~12歳)
- 鉛筆や箸の正しい持ち方、時計の読みかたを教えておいてほしかった (25~30歳)
- 勉強を教えること (13~17歳)
- 週末だけではなくて平日にも一緒に遊んでほしかった (18~24歳)
- 親にもっとあまえたかった (6~12歳)
- 幼稚園での外遊び時間がもっと欲しかった。(6~12歳)
- もっとたくさん自由に遊べるところが欲しかった。(13~17歳)
- 末っ子である妹ばかりを親も親戚もかわいがって、おとなしい私の相手をしてくれる人がいなかった (25~30歳)
- もっと美味しいもの、アイスとかソフトクリームとか買って欲しかった。もっと物を買ってもらいたかった。もっと本を読んでもらいたかった。秘密基地を作ってほしかった。旅行もっといきたかった。ゲーム機を買ってもらいたかった。(6~12歳)
- お小遣いをもらって、自分で好きなものに使って、それがどれだけ自分に対してメリットがあるのかお金の使い方を考えられる機会が欲しかった。(25~30歳)
- もっと甘えられる存在がいたら良かったのかなと思います。2歳下に弟がおり、母も大変な思いをしながら過ごしていたと思うので、自分だけを見ている時間が今思うと不足しているように感じます。(18~24歳)
- 暇な時にもっと遊んで欲しかった (6~12歳)
- 話しかけてもらおう (13~17歳)

- 時間を気にせず遊ばせてほしいと思った。(18～24 歳)
- 体験ぐらいでもいいからもう少し色々な習い事やってみたかったと思います (13～17 歳)
- もっと学習環境を整えてほしかった。経済的に仕方なかったが、他の同級生と比較してできる習い事が少ないと感じていた。(25～30 歳)
- 習い事をもっとさせてほしかった (13～17 歳)
- 園外学習にいきたくかった (6～12 歳)
- やってみたいと言ったことをもっとやらせて欲しかった。お金(数百円レベル)や時間、危険性(女の子が空手は危ない等)を理由にやらせてもらえないことがあったが、今振り返って数百円レベルのお金を出せない家庭環境では無かったと思うし、一般的な範囲のスポーツには危険が付き物と思われる。(25～30 歳)
- 怒られているとき、もっと優しくしてほしかった。ほめられて伸びるから。(13～17 歳)
- 友達とけんかしたときの仲直りの方法を教えてほしかったです。ふつうに家にいるだけで、地震が起きたらとかおばけがここから現れたら、などと思って言い様のない恐怖が私を襲います。怖いです。今は滅多なことではそんなことは起きないと知っていますが。ひとりにしないで。ずっとそばにいてほしかったです。(ずっとそばにいてくれたのですが、それでも怖いです) (13～17 歳)
- 学ぶことの楽しさ (13～17 歳)
- 習いごとをさせてほしかった (6～12 歳)
- もっと遊ぶ時間が欲しかった (6～12 歳)
- お母さんが自分を構ってくれなくて寂しかったのでもっとかまってくれほしかった。(弟が生まれてずっと抱っこやお世話してたり、これやってと私が言っても、『これが終わってからね』と後回しにされるが多かった) (6～12 歳)
- 遊んで欲しかった (25～30 歳)
- ダメなことをダメと教えるより、理由を知りたかった (25～30 歳)
- 他人の目を気にしないで欲しかった (25～30 歳)
- もっと遊ばせて欲しかった (6～12 歳)
- 習い事をさせてほしかったピアノや習字、水泳など (13～17 歳)
- 親が家にいて欲しい (6～12 歳)
- もっと遊びにつれていってもらいたかった (6～12 歳)
- 兄弟がいなくてつまらなかった。お父さんが仕事で旅行できなくてかなしかった。お母さんが仕事してるから、ほかのお母さんと LINE を交換しないといけないのでできなくて児童館とか図書館も遠くて友達とあそべなくてつまらなかった。コロナのときにずっと家の中で、一年生の入学式のあとも勉強ばかりで夏休みが短くて最悪だった。そういうことをお母さんに言ってお母さんが困るのがいやだった。三年

生になって、公民館とか市とかでこどもの居場所とか演劇教室とかがあって、日曜日に遊べるようになってうれしかった（6～12歳）

- あまりない。幼稚園にもっと早い時間に行きたかった。幼稚園バスの関係で早く幼稚園に着かなかった。（13～17歳）
- 父親にはもっと遊んでほしかった。（18～24歳）
- いろんなお仕事が見学、体験できる機会が多かったら今の自分の視野が広がったと思う。（13～17歳）
- もっといろんなことに挑戦する機会が欲しかった。（絵のコンテストなど）（13～17歳）
- 一緒にいる（13～17歳）
- もっと一緒にいて欲しかった。双子の妹ができて、そちらに手をとられており、こちらに接する時間が少なかったのがさみしかった。（18～24歳）
- もう少し我儘とかではないけれど自分のやりたいことをやらせてくれたら良かったなと思う。（13～17歳）
- 運動神経がよくなるように、自由に様々な発達上大切な動きができる、安全な場が身近にあるとよかった。（25～30歳）
- もっといろんなところに連れて行って欲しかった。遠足は水族館や植物園などの大体同じ場所ではなく、お城とか電車とか家族で行かないような場所や図鑑で見ていた本物を見せて欲しかった。（18～24歳）
- お休みの日に一緒に出かける ゆっくり話を聞く ご飯を一緒に食べる（25～30歳）
- もっと出かけたかった（13～17歳）
- 運動の機会とコミュニケーションのルールを学ぶ機会が欲しかった（25～30歳）
- もっと早く父母に仕事から帰ってきてほしかったです。（6～12歳）
- 0～3歳くらいまでは、両親共に面倒を見てくれました。しかし、今振り返ると父が全く家事をしてくれなかったり、職場、保育園から家は遠く、車の母と私や妹が帰りたくても、父が電車で帰りたくないため毎日母が気を配って時間をつぶしていたのを覚えています。父親が子供を可愛がるだけで、育児の仕事も家事もしてくれないのは、気分があまり良くなかったです。両親は仕事でくたくたなのは、分かっていたと思いますが、それでも遊んだり、まだ行ったことのない公園や動物園、水族館、博物館に行きたいと思っていました。（13～17歳）
- 預かり施設で遊んでいる時、先生が他の子の面倒を見て遊んでくれない時があったから、多くの子供の面倒を見てくれる先生を増やしてほしいです。その施設で働く人達の給料は通常の二倍のお給料をお願いします。（13～17歳）
- かがい授業（13～17歳）
- 私は、小さいころから体で表現することが好きで、バレリーナになりたかった時期があったが、バレエをする為に準備するものや、発表会にかかる費用が高く、費用

が払えずに仕方なくやめる事になった。私みたいに、自分のやりたいこと、なりた
いものに経済的な理由で諦めなくていいように、何か経済的支援をしてほしかった。

(13~17 歳)

- 遊具がたくさんある公園に行きたかった。車でそのような公園を見ると、小学生の
時でも行きたいと感じていた。(13~17 歳)
- 可能な限り色々なことを実際に体験できたら良かったかもしれない。スポーツ、音
楽、芸術、遊び…そしてそれらへの取り組みを評価するのではなく、ただ見守った
り認めてもらえたら、自己肯定感が高くなったかもしれない。褒めることなく、
ただ存在を認めるというのが欲しかったのかな。(25~30 歳)
- 得意なことや好きなことを学べる場所が欲しかった (13~17 歳)
- 英語などの教育を受けておきたかった (18~24 歳)
- 安心して子供が遊べる場所を確保してほしい②親子で遊べる場所が欲しかった
(13~17 歳)
- もっと相手してほしい。優しくしてほしい (13~17 歳)
- 親や祖父母など、身近な人の職場見学をもっと沢山してもらいたかったです。小学
校以降では友達との交流を優先させがちで、大人の仕事に興味を持ち観察できるの
は幼稚園までかなと思いました。それくらいの年頃の子供はとにかく色々なことに
興味を持ち知りたがるので…。小さい子供ならではの世界観で楽しみながら仕事を
知ることができ、記憶に残る経験ですし、成長後の就職活動の選択にも繋がるのか
なと考えます。中学校で職場体験がありますが、それよりももっと早くから(体験は
無くても)職場見学だけはやってもいいのかなと思いました。(18~24 歳)
- 大人にもっと遊んで欲しかった。ボール遊びとか、積み木とか。家の中でも遊んで
欲しかった。ボールがもっと上手になっていたかったし、いま甘えん坊なのは構っ
てもらっていなかったからかも知れないと思うから。(6~12 歳)
- ひらがなを学べる教材がほしかった (13~17 歳)
- もっと親にかまってもらいたかったとおもう (25~30 歳)
- 保育園の時は、保育園と家の行き帰りばかりでパパとママと一緒に過ごせる時間
がもっと欲しかった。幼稚園に行っていた友達にはピアノやスイミングの習い事をし
たり、家でお母さんと料理をしたりしてうらやましい。私が熱が出た時、ママが電
話で頭を下げて会社に休みの連絡をしていて悪い事してるみたいだったけど、ずっと
家で一緒に過ごせて嬉しかった。お金を稼ぐのが大事なのはわかるけど会社に行っ
てほしくない。もっとパパとママと遊びたい。(6~12 歳)
- 足し算引き算をしたい (13~17 歳)
- 将来の夢を絵に描かせるなど、将来の夢を無理に考えさせるようにはしないこと。
(25~30 歳)
- 集団行動で馴染めなくてもすぐに叱らないでほしい。(25~30 歳)

- もっと褒めてほしい。(25～30 歳)
- やりたい習い事をさせてくれたけどもっと何年も続けさせて欲しかった。(13～17 歳)
- もう少し保育士が明るく子供に接して欲しかった。(13～17 歳)
- 保育士が明るく子供に接して欲しかった。(13～17 歳)
- 遊びや行楽地 (18～24 歳)
- 保育園はとても楽しかったが、もう少し家族と過ごす時間がほしかった (18～24 歳)
- 自分で考えて自由に遊べる時間をたくさん作ってほしかった (18～24 歳)

③ 「『こどもの誕生前』から切れ目なく育ちを支える」に関連するもの

- 該当する意見なし。(複数カテゴリに該当する意見は「⑥ 上記①～⑤の複数のカテゴリに関連するもの」(p.20)に掲載)

④ 「保護者・養育者のウェルビーイングと成長を支える」に関連するもの

- 自分が姉という立場だったため、もっと母に自分を見て欲しかった。今振り返ってみれば、父との関わりが希薄で、父がもっと関わってくれていたなら母への気持ちも違っていたと思う。(25～30 歳)

⑤ 「こどもの育ちを支える環境や社会の厚みを増す」に関連するもの

- 年齢制限が厳しすぎる。みんなの施設だと思っていたのに、小中学生の為の施設だから幼児は使えないとかそういうのは違うと思う。(13～17 歳)
- 携帯型ゲーム機くらいは買って欲しかった (18～24 歳)
- ・入院した時の付き添い。自分は親が付き添ってくれたが同室になった子は親が忙しく普段よく関わっていた地域の人が付き添おうとして難しかったと聞き、悲しく思ったことを覚えている。それが制度上のものか金銭的理由かは分からないが子供への付き添い入院がもっと気軽にできるようになればと思う。(25～30 歳)
- 発達初期段階で、心理テストなどで特性を測れる機会があったら良かったと思う (18～24 歳)
- 経済的に支援があって欲しかった (25～30 歳)
- 幼児期を振り返ると、幼稚園・保育園の送り迎えや行事で父が参加していた記憶がない。男性も育児に参加しやすくなるよう、休みや時短勤務が柔軟に取れるように政府から企業に働きかけてほしい。(25～30 歳)
- お父さんが病気で倒れてお金がなくなり、遊びに行けなくなった。病気の人を助けてくれる制度があればよかったのと思った。(年齢無回答)
- もっと父の給料を上げてほしかったです。私の母は人見知り激しい私に対して「寂しい思いをしないように」と、専業主婦として現在も私に寄り添ってくれています。

そのおかげで、幼少期はいつも楽しかったです。その中で、父の給料だけでは生活するのに精一杯で、祖父母の助けがないと学費が全く貯金できませんでした。私は今中学生ですが、母は修学旅行費ですらどう捻出したらいいかに困っています。父の給料を上げて欲しいという思いは今も変わりません。父は同じ会社に20年以上勤めていますが、1円たりとも給料が上がった年はありませんでした。また、最近大手企業が賃上げを決定していますが、現在給料は20年前と変化していません。さらに、ボーナスも少なく一般的な公務員よりもはるかに少ない金額しか貰っていません。母は「給料が少ないせいで〇〇（私の名前）に挑戦させてあげたいことでも、『やってみたら』と言えない」と嘆いていました。どうか、ある家族の苦しみを知り、対策を講じてくださることを願っています。（13～17歳）

- 大人が求める「いい子」を演じ続けていたので、自分の本当の気持ちが言えなかった。大人にもっと向き合ってほしかった。うちはお金がなかったので、習い事ができなかった。他の家庭との差も感じていたので、挑戦できないことがすごく悔しかった。子どもはお金の心配をしなくてすむように格差をなくしてほしい。（18～24歳）

⑥ 上記①～⑤の複数のカテゴリに関連するもの

- 下の兄弟が小さい頃に、当時の年齢では納得できない理由で我慢しなくてはいけなかったことが多く、中学生に上がるまで引きずっていた時期がありました。今振り返ると自分には必要な時期だったと思いますが（親も子育てでいっぱいだったと思うので）、誰か第三者に頼れたり甘えられたらもうちょっと辛くなかったかなと思います。（18～24歳）【カテゴリ④⑤】
- もっと子供の意見に寄り添って欲しかった。特に、やりたい事、チャレンジしたいと思ったことが出来なかった経験があり、子どもたちが自らやりたいと思ったことを経験できる場が欲しかった。また、子どものやりたいことをやらせてあげようとする大人の思いが弱かった。子どものやりたいことを否定しない大人が必要だと感じた。（18～24歳）【カテゴリ①②】
- 通園していた保育園で保育士による虐待（吐き戻したものを食べるよう強要・できないことをお願いした際「こんなこともできないの？私がしたら何かしてくれるの？」と高圧的な言動）があったため、保育士養成の徹底と児童の声が反映されやすい環境の整備をして欲しかった。（18～24歳）【カテゴリ①⑤】
- 中々厳しいが幼児期の幼稚園保育園にも合理的配慮、インクルーシブ教育それに療育にいきやすかったり幼稚園保育園の先生が保護者にアドバイスできる制度があったらと思う。幼児は将来の人格形成と運動能力、それに初等中等教育へと続いていくと思うので幼児期に合理的配慮、インクルーシブ教育、療育を受けるとかなりかわると思う。例えば自身は発達障害の特性上身体使い方が下手でスキップやロープワーク、姿勢保持が苦手だったり、感情コントロールに課題があるがこれらはか

なりの長い時間をかけないとできないし今もできないので、幼児期から取り組んでいれどと思う。実際、保育士の母も幼児教育で発達障害への対応は困難といっている上に幼児期から取り組み小学校つなげるのが大事と語っていた。長くなってすみません。最後にもしできるのであれば特別支援教諭のような資格仕事を幼児教育でもつくっていただけると僕のように早期介入支援できない人が減ると思います。またうちはなんとかなりましたが発達障害とわかるとショック受ける上に療育受けない親も多いと聞くのでその対応も必要ではと思います。(18~24歳)【カテゴリー①③④⑤】

- 金銭感覚を身につける教育をしてほしかった。小中学生の頃は漠然とお金がないという認識はあったが、どの程度の経済状況なのか認識できておらずに金銭的な理由で行事に参加できなかったときに消化不良になっていた。宗教についてフラットに教育して選ばせてほしかった。母親が新興宗教の信者で当たり前のように信仰を持つように教育をされたが、七夕やクリスマスなどの世間一般的な行事と関わりを持つことがなく、高校生以降になって宗教の道を選ばなかったときに行事等に対する一般教養がなく苦勞した。(25~30歳)【カテゴリー①②⑤】
- 褒めて欲しかった。自分の言うことを信じて欲しかった。自分の周りの大人は自分のことを褒めてくれなかったし、いじめられていたことを相談しても、何もしてくれなかったから。(18~24歳)【カテゴリー①②】
- 知能検査(WISC)。「あなたはそのままがいい」と認めさせるために必要だと思ふ。得意不得意を努力だけで解決できるわけがない。(18~24歳)【カテゴリー③④】
- 私は宗教2世です。周囲の大人や社会全般に対し、してほしかったことが沢山あります。まず前提として、その宗教では子どもが生まれた時から実質的に信者として扱ひ、宗教活動を強制します。関わる大人も全てがその宗教の信者であり、コミュニティに囲い込み、信者以外の大人やコミュニティとの接触や交流を制限します。そのため、私は幼稚園も保育園も通うことなく、幼少期から信者に囲まれて育ち、著しく社会常識から逸脱した教義を刷り込まれ、他者との交流を断絶されて育ちました。毎週3回(現在は2回)開催される集会では、「この宗教以外の人々は邪悪な人々であり、世界は近いうちに滅びる」と耳にタコができるくらい教えられました。こども家庭庁の資料には、「愛着が土台となる安心と挑戦の循環」とありますが、そんなものは微塵もありませんでした。その宗教の世界で挑戦は罪であり、何か外の世界で挑戦するようなことは決して許されませんでした。幼児期から教団のために生きることが最善の生き方で、それ以外は認められないと教え込まれました。私の小さい頃の口癖は、「生まれてこなければよかった」でした。本来は将来の夢と希望に溢れ、何にでも挑戦する幼児期に、「お前の生き方は宗教が決める、教団が決める、宗教活動以外は考えるな」と押し付けられ、死んでしまいたくなるような息苦しさ、閉塞感に苦しみました。また、教団内部は鞭をはじめとした児童虐待がまかり通る

世界であり、私が鞭で打たれようと、誰も助けてくれない世界でした。集会では性的な言葉が載った資料も幼児期から何の配慮もなく見させられ、私は「セックス、マスターベーション、オーラルセックス、淫行」などの言葉を意味も分からず口にしていました。家庭では、クリスマス、正月行事、七夕、誕生日を祝うこと等々、あらゆるイベントや祝い事を禁止され、幼児期に何かをお祝いされた経験はありませんし、自分の誕生日すら、小学校に入って自分の誕生日を何かのタイミングで教員に伝えないといけないことになり、そこで初めて自分の誕生日を知りました。家庭外のお祭り等も、その宗教以外を祝うなど禁止され、世の中の楽しみや文化にふれる機会と権利の一切を奪われました。宗教活動として最重要視される布教活動にも小さい頃から強制的に参加させられ、土日は民家を訪問し、教団のパンフレットを配る日々でした。暑い日も寒い日も参加させられ、今思えば子どもにとっては耐え難い重労働でしたが、信者以外の周りの大人も、誰も助けてくれませんでした。教団内部には、日々の活動に追い立てられ、精神を病んでいる信者も沢山いました。幼児期ではなく小学生くらいの頃でしたが、家に遊びに行ったこともあるような信者が、ある日突然、自殺してしまったことがありました。その宗教の教義では、自殺は許されない事なので、他の大人の信者は皆、自殺した信者の話をしなくなりました。小さい頃の私には、突然その人の存在が消されたようで、とても異様だったのを覚えています。簡単に比較は出来ませんが、小中学校などで自殺者が出ると、専門家が派遣され、子どもの心のケアにあたるということが、ニュースになります。私も本来は、ケアを受けるべき体験をしたのだと思いますが、その頃になると心が死んでいて、悲しいとも思いませんでした。周りの大人が、自殺した信者の話をしなくなったので、悲しんではいけないと、本能的に判断したのかもかもしれません。その宗教のコミュニティでは、自殺は珍しくありません。子どもの精神にどれだけ負荷がかかっているか、考えるだけで恐ろしいです。その宗教は輸血拒否でも有名です。私は生まれつきの心疾患があり、輸血を何度も受けています。もし何か運が悪ければ、輸血拒否で殺されていました。昨今の報道では、妊婦が輸血を拒否し、胎児もろとも死亡した例もあったようです。今作ろうとしている指針は、胎児もその対象に入っているようですが、胎児の時に外の世界を見ないまま、親のエゴで殺された子どももいるのです。こんな非道が絶対に許されないようにしてください。私はまだ20代ですし、これは何十年も前の話ではありません。こどもの誕生日前から幼児期までの育ちをひとしく保障するという考え自体は、とても素晴らしいものだと思います。ただ、どれだけ立派な指針を策定し、社会資本を整備したとしても、親と教団に人生を搾取される子どもを救うことは出来ません。教団という強力な大人の集団が、親と一緒に子どもを囲い込み、人生を搾取しようと躍起になっているのです。これは、通常の虐待よりもはるかに厄介です。なぜなら、子ども自身がどれだけ外と関わろうともがいても、決して許さない仕組みが出来上がっているからで

す。国の強力な介入・支援により、強制的にでも、「こどもの誕生前から幼児期までの育ちをひとしく保障」しないといけばいけません。最近はその宗教も高齢化が進み、子どもを囲い込もうとする圧力は、ますます強まっているようです。もし本気でこども家庭庁が、「こどもの誕生前から幼児期までの育ちをひとしく保障」する気があるのなら、この問題を指針に書き込まないという選択肢はないはずです。もし書き込まないのであれば、こども家庭庁は、教団に囲い込まれた子どもの存在には蓋をして、見捨てたのだと、私は思います。(25~30歳)【カテゴリ①②③④⑤】

- 新聞のインタビューに答えた時に、「(田植え体験をしてみて)泥が気持ち悪かった」と答えたら、掲載されなかった。そのことを親は「折角尋ねられたのに、勿体ない」と残念がった。体験の一部への感想として出た発言はネガティブでも、体験全体への最終的な感想はポジティブなものを得ていた。そのことを理解して欲しかったが、体験のことすらそっちのけで、新聞にのるかどうかでその日の出来事を「残念に終わった」と処理されるのはしばらく忘れられないくらいに悲しかった。こどもの自由な言動を、大人の目線で不用意に評価しないで欲しい。ネガティブな評価に関わらず、ポジティブな評価についても、指向的になるから避けて欲しい。評価したくなくてもこらえて、興味を持つての質問や、受容に留めて欲しい。(18~24歳)【カテゴリ①②】
- DVのある家庭だったので、親及び夫婦が仲良くして欲しかった。子供の目の前で親同士の殴り合いや罵り合い、性行為はやめて欲しかった。親から子に対して、暴力、暴言及び人格否定があったため、子に対して優しい声かけ、暴力に頼らない教育をしてほしかった。過保護、過干渉、易怒性があり、褒めない教育をする親だったため、子に対して褒めながら自立心、自主性を育める教育をしてほしかった。エビデンスのある教育指針を国として親に促してほしい。将来の夢があったが、貧しい家庭環境を理由に親から無理矢理諦めさせられたため、どんな家庭に生まれても、どんな子もどんな夢も応援できるような社会を作してほしい。父・母、兄弟からの性的いやがらせは、トラウマになるし、誰かに話づらい事柄なので、第三者に相談しやすい環境を作してほしいし、子が虐待であることを認識できるための教育を行なってほしい。離婚した父は養育費を払わず、母も子が小さい時に病気になり仕事を退職。それ以降は、母の貯蓄を頼りに生き、貧しい生活だった。そういう家庭でも、貧しい思いをしたり、進学を断念することがないような社会のしくみを作してほしい。子供間でのいじめをなくしてほしい。(25~30歳)【カテゴリ①④⑤】
- 両親は若くで結婚・出産したため生活に余裕がなく、働いてばかりで家族が揃う時間が少なかったため、家族揃って楽しく過ごす時間がもっと欲しかった。自分が親になって、少子化というわりには昨今充実する気配がない公的機関による子どもを持つ家庭の支援(控除でも手当でも)、子育てへの社会からの理解、キャリアやお金の不安なく育休や時短勤務できる環境、せめてどれか整っていれば違ったのかなと

思う。(25～30歳)【カテゴリ②④⑤】

- 小学生だから大人よりも簡単に物事が解決するなんて思わないでほしかった。小5の時に同級生から嫌がらせをされていた。消しカス投げられるとか蹴られるとか。ある時、妹を侮辱されて先生に相談した。でも先生はその男子を連れてきて、謝らせて終わり。その後も嫌がらせは終わらなかった。小2の時の担任の先生に私は筆箱を捨てられた。他の子はチョークを投げられたり首を絞められたり。でも私達はどうしたらいいか分からないから大人に相談した。返答は「あの先生はそんなことしない」1年間、本当に怖かった。子供が相談するのは本当に辛い時なんです。大人に迷惑かけたくなくて、考えて悩んで苦しんで、言葉にするんです。聞いてください。馬鹿じゃないんです。何をされているのかもどうすれば誤魔化せるのかも知っているんです。あと「皆、友達」は嘘です。普通にカーストありますし、いじめだっています。公園のルールが厳しくなりました。ボール禁止、遊具禁止と。子どもに外で遊んでほしいなら遊べる場所をください。長いし愚痴っぽくなってごめんなさい。(13～17歳)【カテゴリ①②】
- 幼稚園以外の友達と関われる機会が欲しかった。理由は、小学校に上がった時に、幼稚園や保育園が同じ子同士が仲良くしているところに入るのは、ほんの少し難しさがあったのかなと思うから。学区的に特に特定の幼稚園や保育園などから多く入学してくることがあるが、少数人数しか入学しない幼稚園や保育園などのこどもや、幼稚園や保育園などに通っていなかったこどもにとって、友達のいない空間に入ることは難しいと思う。習い事などで、幼稚園や保育園が異なる子と関わる機会はあるが、習い事は習っている人習っていない人がいる。そのため、そういったコミュニティではなく、自然と関わるができるような場所を大人たちに設けて欲しい。(13～17歳)【カテゴリ②③⑤】
- 両親が喧嘩ばかりしていたため悩むことが多かったが、親戚たちも不仲だったり片方の親の話をしてはいけないと言う雰囲気があったため、1人で落ち込むことが多かった。相談というよりは吐き出す場所が欲しかった。両親が離婚した現在も悩むことが多いが、離婚してる家庭は少なくないため一括りにされて個人の話先生や友達に聞いてもらえないことがある。(13～17歳)【カテゴリ①④】
- あくまで個人的な意見ではあるが、特に3歳(年少)の頃保育所に行くのが辛かった。親と離れたくないこと、周囲の友達が喧嘩などで賑やかすぎることに、先生が厳しいことなど不安なことが多くあり、送迎時によく泣いていた。結局卒園時には環境に慣れ、振り返れば上記のような経験も自立のために必要だと思えるようになったが、しかし、思いを言葉にできるほどの能力や先生と話す機会がない中での通園は辛かった。それと同時に、泣き止めなかった時に、ある先生が私を連れて朝会に参加してくれ、静かな場所で一緒に安心させてくれる空間を10分ほどとってくれたことを覚えている。うまく話すことはできなくても、寄り添い向き合ってくれたこと

で、不安が解消された。特に保育所など子育て施設で、幼児一人一人に向き合う時間が少しでも増えれば、辛い思いを抱えている子供が安心できる空間になると思う。

(13～17歳)【カテゴリ①⑤】

- こどもが何を言っても、端から否定しないでほしかった。何らかの被害を受けたことを報告した際に、子供よりも取り乱したり、「そんなことあるわけないでしょ」といった否定をしたりしないで、まずは私の話を聞いてほしかった。親をはじめとする大人たちと私が別の生き物であることを念頭において接してほしかった。例えば、親が〇〇が嫌いだからこどももそれを嫌いであると決めつけ、あるいは嫌いであってほしいと願い、その思いと違う言動をとった際に不機嫌になるなどは、しないでほしかった。親になるというのはどういうことをしっかり考え、親になる資格を持っている人間にのみ親になってほしかった。発達障害・人格障害の親に育てられたこどもの苦労を想像したことはありますか？自分のことで精一杯の赤ちゃん（大人）に育てられても、まっとうに育つのは難しいです。気分によって不機嫌になったり、人格を否定する言動をとられたりします。こどもの成育に必要な安定が欲しかったです。私の大学院の同期にこども家庭庁の人間がいますが、その人に私の家庭環境の話をして、家庭が安全ではない子供時代のイメージがまるで湧いていないようでした。その人は宗教二世問題にも懐疑的なほどでした。余程円満な家庭で育つことができたのでしょうか。だからここで記しても想像なんてできず、記すだけ無駄かもしれませんが。家庭が安全でない子供もいるのだと知ってほしかった。家庭外の大人に話をして、たかがこどもの言うこととしてまじめに取り扱ってもらえない。「あなたが勘違いしているのよ」「こどもを愛さない親なんていない」「あなたに非があったのでは？」などと言われたのがしんどかった。私はいったいどこまでいい子になればよかったのだろうか。精神的に不安定な母の機嫌を取り、家事を行い、夫婦の仲を取り持ち、母に反抗する姉を宥め、姉の分まで父母の望むようにふるまい、それでも私の「勘違い」「非があった」のだろうか。不幸せな思いしているこどもをこれ以上孤独にさせたくない、あるいは、過去のきつい記憶を抱えながらそれでも生きていこうとしている人間がいます。そういう人の話をちゃんと聞いていますか？聞く気はありますか？聞いているなら家族の日フォトコンテストなんてしないと思います。不幸せな家庭出身のこどもは社会のまんなかになんて居てはいませんか？当該フォトコンテストを肯定できない私が間違っているのでしょうか。上記のようにまでしても家庭が安全じゃなかった私の努力が足りないのですか？こどもまんなかと言って貴庁がやっているのは家族まんなかなのです。幼少期からずっと安全じゃなくて、助けてもらえなかった人間としてはただ不信感が強まっただけでした。どうか、家庭とこどもを分けて考えてください。こどもは家庭や親の所有物じゃありません。夫婦喧嘩を子供に聞かせないでほしかったし、喧嘩の後に子供たちに不機嫌な様子やギスギスした雰囲気を感じさせないでほしかった。こどもは

そういうのをちゃんと感じ取れます。たかがこどもと侮らないでほしかった。「親は子供を愛しているのだよ」などという妄言は二度と吐かないでいただきたい。家庭が温かいものだという教育はしないでほしかった。いろいろな形の家庭があることを認めてほしかった。愛されていないという感覚は間違っていると思っしまい、孤独と不信感が強まったため。幼稚園の母の日・父の日の催し物や工作で感謝したくないのに「ありがとう」と書かされるのがしんどかった。無条件の愛がほしかった。私がどんな人間でも、理由なんかなく愛してほしかった。愛されるために空気を読み、いい行いをし続けるというのは非常に苦しかったです。たくさん抱きしめてほしかった。こどもの考えを察して、小さな SOS を拾ってほしかった。大人にべったりくっついているこどもは、その大人が好きだからではなく、愛されたくてそういう行動をとることがあります。あるいは、暴力を振るわれたり不機嫌になられたりするのを防ぐためにそういう行動をとったりします。「仲良しの家族ね」などと脳内お花畑の発言をとるのではなく、こどもを観察し、身を守るために大人に媚びを売っていることを見抜いて、安全を確保したうえで話を聞いてほしかった。幼少期のつらい記憶を必死に呼び起こしてできるだけ冷静に書いたつもりです。自分のようなこどもが一人でも多く救われる結果になるように、フラッシュバックに耐えながら、泣きながら、息が出来なくなりながら書きました。これは私の魂からの願いをまとめたものと言っても過言ではありません。どうか、無駄にしないでください。(25～30歳)【カテゴリ①②④】

⑦ その他

- 自分に対しては十分だったが、両親に対してはもう少しまわりからの理解や援助があれば良かったと思う。(13～17 歳)
- いじめられた時や学級崩壊時に周りの大人が親身に対応してくれなかったのと言いやすい環境作りがなされていなかったため、いじめや学級崩壊の原因の追及や加害者に罰則をもうけて、取り締まってほしいのと教育現場の人数を増やしてほしい。(18～24 歳)
- 家族には相談しにくいこと、友達には相談しにくいこと、先生には相談しにくいことなど、相談内容に乗って相談したいと感じる相手が変わることがあると思います。そんな時に気軽に相談できる環境がもっと整っていればより良いと考えます。私は経験がありますが、例えば面と面向かって話しにくい時は、交換ノートを活用していました。特に、担任の先生との交換ノートはすっごく楽しかったし安心感がありました。その先生が独自に始めたことだったので、担任が変わった時にこの制度はなくなってしまいました…。もっとこの取り組みが広がって欲しいなと思います。(25～30 歳)
- 虐めを無くすこと、いい担任が良かった、(いじめに加担しない事、無視をしない事等) (6～12 歳)
- 立ち小便のやり方(気付いたらずぼんを下げすぎてる事があると友達に指摘された事があった) (25～30 歳)
- あの頃は、当時は不思議な感じで、保育園に過ごしたが、そこの保育園は、古い保育園だったが……しかし、小学生から、日本の文化とは真逆に異次元な学校生活が始まるきっかけになり、私自身の趣味の体質を極端に異能変化させるきっかけになりました。小学校は、1960 年製～1970 年製の和式校舎に 2007 年製の増築された校舎で過ごす事になりました。和式校舎に関しては、2007～2011 年まで、増築された校舎に合わせて、2007 年から和式トイレが増築仕様の洋式トイレに改修され、以後から一部改修になりました。私自身は、知的障害持っていた為、特別支援学級に入ったが、その特別支援学級の場所が、2007 年製の増築校舎にありました。そして、何よりも、その校舎は特別支援学級だけではなく、5 年生と 6 年生の入っていた事から、私のみだけ、先行で、この校舎で生活が出来ました。しかし、その代わりに、自分の行動に、原因不明の相手の副作用行動等の影響で喧嘩等のトラブルにはなりましたが、幸いな事に安全な小学校で生活が出来ました。おまけに、小学 4 年生までは、学童保育で過ごしましたが、また、こちらも凄い事に、小学 3 年生からも、2011 年製の増築された建屋でありました。4 年生の 9 月で退所にはなりましたが、皆さんは、凄い元気な良い子ばかりでした。特別支援学級に過ごしたのは非常に極めて良かった物、半分だけ楽しかったです。そして、自分は諸般の事情で、特別支援学校に進学しました。しかし、校舎も 1991 年製の特殊な校舎で、和式トイレが綺

麗で誰でもが出入りしやすく、この特別支援学校用に、換気性能が良く、暖かい足場で水捌けの良い大きめな特注の四角いタイルでありました。今は、基本の一般的な洋式トイレ改修されました。教室でも特注のエアコンもありました。中学と高校の機能も入っているのに、衝撃的な事実が発覚しました。それは、制服と体操服無しで私服で1日生活してもOKだったとのこと。しかし、残念ながら、人間関係が脆弱性であり、不祥事の影響や相手からの闇の圧力により、派主義分裂騒動により、分断となってしまう、結果、高校2年生の5年目で不登校となり、校舎と環境は大事にしながらも、6年目で対立・関係を断絶し縁を切りました。絶望な学校生活にはなりましたが、しかし、校舎だけは良かったです。本当は、自分の通った小学校に、特別支援学校のセンター的機能ではなく、最初から、トラブルが物凄く起きにくい人権意識高く、校長先生と連携を取ったフリースクールに公平性に適正配置が可能な特別支援学校教員免許状の持つ先生や特別支援学校経験者の出身の先生に、担任配置をして欲しかった気持ちはありました。あと、一番は、私自身なども含め全ての皆様と噛み合う優しい若手の教員を配置した事が適正だったと思います。しかし、自分は、納得が行きました。今の文部科学省をこれからもずっと信じます。2022年3月に文部科学省が全国の教育委員会などに対して、全ての教員に特別支援学校や特別支援学級で10年目まで2年以上の経験の通知に、僕は正直こう思いました。最初からもっと早く、やって欲しかったのが、自分の気持ちでした。出来る限り今後、文部科学省に対しては、可能な範囲で特別支援学校に一般学校の教員をバランスよく慎重に配置して欲しいです。また、今後2025年度までに、全ての障がい者に対応する為に、小中学校のトイレの95%が最新のバリアフリーの洋式に改修する事に関しても評価、歓迎を致します。また、一部の高等学校の最新のバリアフリーの洋式トイレに改修して欲しいです。また、ついでに、心から申し上げますが、全国の公立学校の95%で、バランスよく支援金を出し、可能な限り適切な時期に一斉に校舎を大規模改修の推進も指示も検討して欲しいです。また、校舎の改修に関しても、教室のドアは、木製ドアに置き換えて出来ないかもご検討をして欲しいです。また、至る所にも、木製の板などの装飾も推進してもらいたいです。また、自分は制服が未経験な為に、こんな実現もして欲しいです。全国全ての小中高等学校（私立も含む）で、年内までに私服OKを状態を100%化出来ないか検討をして欲しいです。制服を廃止せよとは自分は考えておりません。本当は、自分はずっと大人になりたかった物、それは、交通関係・タレント・アナウンサー・ゲーム実況を目指す事が目的でしたが、特別支援学校進学の影響で、断念しました。しかし、ゲーム実況に関しては、保留にはしますが、この先、あるイベントの開催を求めて、私自身は、楽しみをしています。2年後だとは思いますが、そのイベントは、もしかしたら、僕の企業探しの手がかりになるかも知れません。異質な気配も感じます。特にありませんが、この先も自分は状況を注視していく次第です。幼児時期から成人

まで、本当に異世界が引き換えたかのような学校生活でした。

- 小学校で、どんなことをしたり、生活をしているのか分からないから、いつも、どこで、何をしているのか分かるようにしてほしい。例えば、ふだんの学校生活の見学、ふだんの学校生活の動画、質問する機会など。(6～12歳)

⑧ わからない・特になし

- わからない。(6～12歳)
- 特に無し。(23件、6～30歳)
- 大切に育ててもらったので他に求めることはない。(13～17歳)
- 私自身は恵まれていたので、幼児期に『こうしてほしかった……』ということはありません。他の方の意見を大切にしてください。(25～30歳)

以上